軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート21

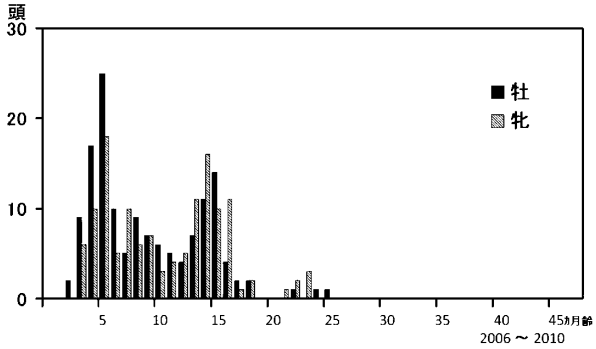
軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

健康管理と獣医療技術
― DOD発生状況調査，「骨端症」（2）―

前回は「腰痿症」の発症時期について，「骨端症」の発生時期に照らし合わせて検討してみましたが，今回は「骨端症」の発生時期をもう少し深く掘り下げて検討してみようと思います。前回と同様，2006年から2010年に，獣医師が診療し「骨端症」と病名をつけた273頭での調査結果を示します。

図－１は「骨端症」の多く発症する時期を示したものですが，前回は時期的には何月に発症が多いか，今回は，馬自身の月齢では，いつ頃に発症が多いのかを示したものです。どちらも同じような二つの山があり，「骨端症」は，当歳の７，８月（球節）と，１歳の５，６月頃（腕節）に多いとも言えるし，月齢では５ヵ月齢頃（球節）と14，15ヵ月齢（腕節）に多いとも言えます。

図－１　「骨端症」の月齢別の発生頭数



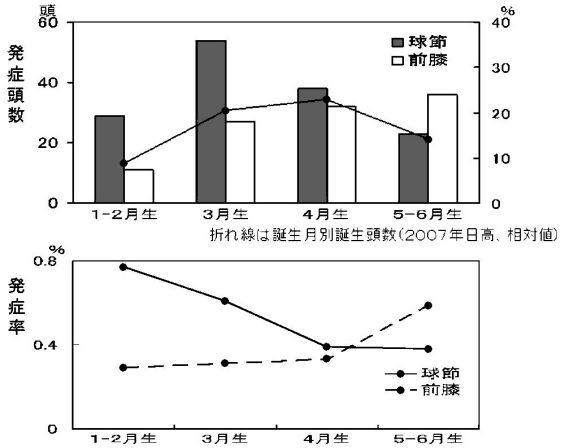
何月に発症が多いかというと，冬の凍った土地がいけないのか，春先の急激な運動の増加がいけないのか，あるいは青草に頼れる飼養の変化がいけないのかと，環境や飼養方法についていろいろ考える事でしょう。何ヵ月齢に発症が多いかというと，それはサラブレッドの特性として，その時期だけは気をつけるようにするでしょう。環境（土地，気温，草地，運動量）の方が大きいのか，それともサラブレッドの特性なのか。どちらがより大きな要因となっているのかは，はっきりしません。

図－２は，誕生月別による，その後の「骨端症」の発症状況を示したものです。上の図は発症した実頭数を棒グラフで示しました。下の図は発症比率を折れ線グラフで示しました。発症比率は，2007年の日高の全サラブレッドの月別誕生頭数を分母として計算しました。当歳時の球節の「骨端症」については，まさしく，多く発症する時期（７，８月）と，多く発症する月齢時（５ヵ月齢）が重なる，１―２月，３月生まれの馬に多く発症していました。１歳時の腕節の「骨端症」については，なぜか５―６月生まれの馬に多く発症していました。

球節の「骨端症」 ５ヵ月齢

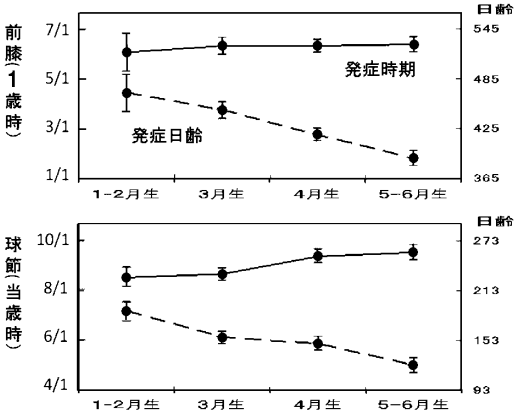
球節の「骨端症」の仔馬を多く出産する馬は，遅い時期に出産させるようにすると，いい結果が得られるかもしれません。

図－２　誕生月別「骨端症」の発症頭数と発症率



一方，図－３は，環境要因のほうが大きいことを示す表です。実線では誕生月別の平均発症月日，破線では平均発症日齢を示したものです。発症月日の推移に比べ，発症日齢の推移は大きく，つまり，遅く生まれた馬も，ある時期には「骨端症」を発症してしまうことを示しています。

図－３　誕生月別「骨端症」の発症時期・発症日齢



やはり出産時期を調節するだけでは，すべての「骨端症」を防止することは，出来ないのでしょうか。サラブレッドは品種改良の結果として，他の馬属にはない急激な成長をするようになり，逆にその成長の速さに関しては，より問題を多く含む品種となりました。サラブレッドの特性も知りながらも，環境要因によって起こる問題に対しては，適切な飼養方法で対応していかなければいけないのですね。